東海新報
平成29年(2017年)12月25日(月曜日)

教育の大切さ再認識

住田「池上先生との語らい」

住田町の天嶽地域構想学・拓人全人塾が主催する「池上先生との語らい」は23日、世田米の町生活改善センターで開かれた。京都大学名誉教授の池上惇氏(84)を囲み、来年5月に上有住に開校を目指す「文化政策・まちづくり学校」への思いなどを共有。時代変化に対応した教育の大切さなどを確認した。

まちづくり学校は、上有住土倉の古民家を改修して開校する計画。池上氏が準備委員会の委員長を務める。今年に入り、同塾などが池上氏を岩手に招き、語り合う場も設けてきた。

今回は「よく生きること」がテーマで、地域住民約20人が出席。池上氏は、保育士不足など全国的な社会問題を取り上げ、自身の経験を織り交ぜながら解説した。

この中では「自分の力量を発揮するためには、周囲の協力や社会システムが必要。今ある制度だけでなく、育て、支える新たな仕組みも必要」などと指摘。「気づくこと」は出発点。どのような力が必要かを人々に語り、自ら勉強し、周囲の同意を得ながら進めていかなければ」とも述べ、時代に対応した教育の重要性も掲げた。

出席者は終始熱心な表情で聴講。自己研さんや地域づくりにつながるヒントを吸収しながら、生涯学習への意欲を高めていた。

「語らい」は1月以降も毎月開催する計画。月ごとに主題を設けることにしており、1月は「80歳からのワクワク感」、2月は「偏差値でたどれない人間力」、3月は「見えないものを見、答えのない問いを考える」とする。問い合わせは構想学事務局長の千葉修悦さん(TEL080・6019・3328)へ。

「まちづくり学校」開校への期待を膨らませながら意見交換＝生活改善センター